

限日先物のリニューアル (金・白金)



2025年8月

- ✓ 金・白金の限日先物取引は、2026年4月13日、1年程度で取引最終日が到来する新商品（限月現金決済先物取引）にリニューアルします。
- ✓ 現行の限日先物取引は、2026年12月22日を取引最終日として休止します。

リニューアルの背景

- 金・白金の限日先物取引は、市場価格と理論現物価格（標準先物の2番限と6番限の価格から算出）の間に大きな乖離が継続して発生しているため、取引所から複数回にわたり注意喚起しました。
- しかしながら、乖離の大きな改善がないまま、理論現物価格を基準として算出した呼値の制限値幅の上限に価格が達し、取引が成立しえない状況が散見されるほか、流動性減少及びそれに伴う価格変動の増幅も見られます。
- このようなことを踏まえ、金・白金の限日先物は決済期限を設け、標準先物と裁定が機能する商品にリニューアルします。

新商品の主なポイント

- ・ 金・白金標準先物を対象とする決済期限のある商品設計にて2026年4月13日に上場します。
- ・ 限月は12月限の1限月制（取引期間は最長1年2か月）です。
* 10月～12月は新旧限月が重複します。
- ・ 取引単位は100グラム、1グラムあたり1円で価格形成されます（現行商品と同様）。
- ・ 日々の清算数値は標準先物12月限と同様です。 * 現行商品は理論現物価格です。
- ・ 取引最終日は標準先物12月限の取引最終日の前営業日です。
- ・ 最終清算数値は標準先物12月限の取引最終日における日中立会の始値です。

現行商品の留意点

- ・ 2026年12月22日を取引最終日として休止します。
- ・ 建玉は新商品に引き継がれないため決済が必要です。
- ・ 取引最終日までに決済されなかった建玉は、最終決済期日（2026年12月24日）に最終清算数値（＝理論現物価格）により自動決済されます。



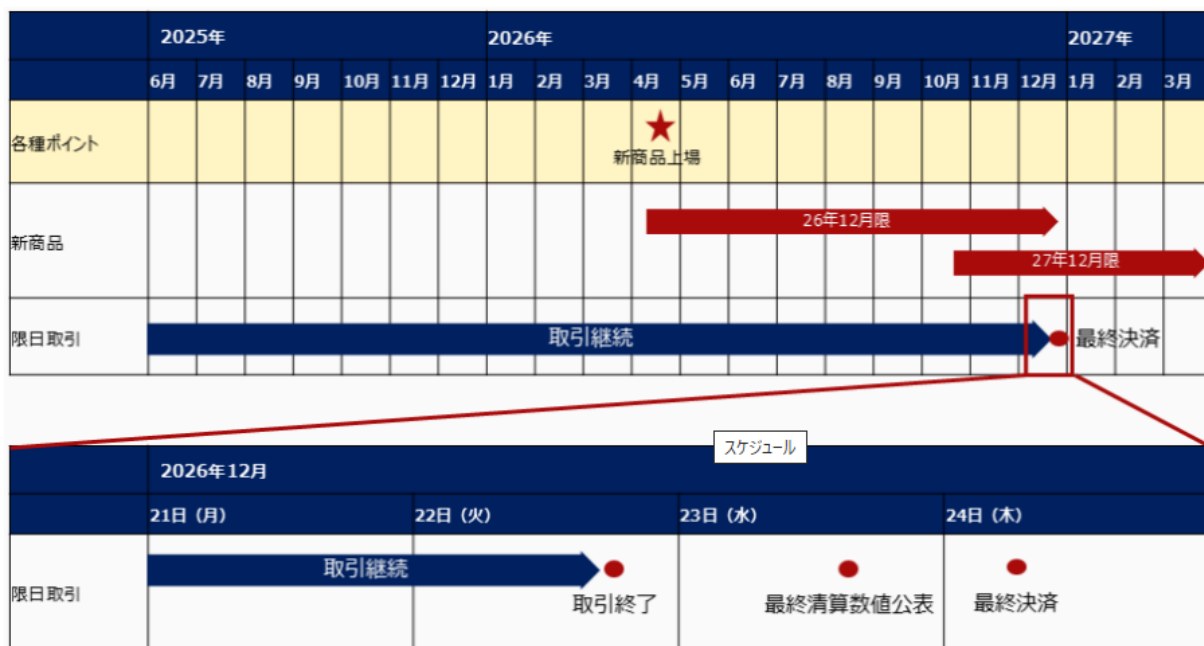
日本取引所グループ

限日先物取引休止と新商品上場





今後のスケジュール



よくあるご質問（現行商品に関するもの）

A 1. 取引を休止するとは聞いておらず長期的に保有できると思い取引を行いました。
過誤に基づくものなので、取引を取り消してもらえないでしょうか。

恐れ入りますがご要望にはお応えできません。投資家の皆様への影響を考慮し、現行商品の休止予定日の約1年半前に休止を公表しました。現行商品の建玉は、投資家の皆様ご自身のご判断でこの期間内に反対売買するか、反対売買を行わずに最終決済期日に最終清算数値にて自動決済するか選択のうえご対応ください。

A 2. 現行商品の建玉を保有していますが、取引休止まで何をすればよいですか。

取引休止までに投資家の皆様ご自身のご判断で、反対売買を行うか、反対売買を行わずに最終決済期日に最終決済価格にて自動決済するか選択のうえご対応ください。

A 3. 現行商品の建玉を決済しなかった場合、建玉は新商品に移管されますか。

建玉を取引最終日までに反対売買を行わなかった場合、建玉は最終清算数値で最終決済されますので、新商品に移管することはありません。

A 4. 現行商品の新規取引はいつまで可能でしょうか。

新規取引は、取引最終日の2026年12月22日まで可能ですが、ご利用の証券会社等によって別途異なる制限を設けている場合がありますので、ご利用の証券会社等にお問合せください。

- 本資料は情報提供のみを目的としたものであり、投資勧誘や特定の金融商品取引業者との取引を推奨することを目的として作成されたものではありません。
- 万一、本資料に基づき被った損害があった場合にも、(株)大阪取引所は責任を負いかねます。
- 本資料で提供している情報は万全を期していますが、その情報の完全性を保証しているものではありません。
- また、本資料は、デリバティブ等について平易に解説・記述しておりますが、全ての内容を網羅したものではありません。
- 本資料に記載されている内容は将来予告なしに内容が変更される可能性があります。内容等について、過去の情報は実績であり、将来の成果を予想するものではありません。
- 本資料のいかなる部分も一切の権利は(株)大阪取引所に属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ無断で複製、または転送等はできません。